

坤輿圖議補

一	九	三	四	五	六	七	八
---	---	---	---	---	---	---	---

玉木之通

玉木之通

弘化三年丙午鐫

坤輿圖識補

全四冊

美作郎

夢霞樓藏



坤輿圖識補序

古者聖王治天下有九經而柔遠人
居其一於是置職方之官掌天下地
圖以周知四方之利害有象寄鞮譯
之設以通四方之言達四方之志其
所以待外國者若是其勤矣後世支
那君臣不知遵奉之恃其富盛概視
外國爲異類不挂之齒身或紀載之

若夢若寤。荒唐不經。將安取信焉。及至近世。西北強虜。狡焉啓疆。駸駸乎殆成剝牀之勢。亦猶恬然不爲意。漠然無所問也。是以一旦遭尹夷之變。狼狽失措。防禦不中機宜。屢致敗衄。纔以和議了局。嗚呼。堂堂大國。以中華自處。而遇平生視爲禽獸者。至卑辭厚賂。苟以自免。傳笑於四方。豈非

可歎之甚耶。是無他故也。驕傲自尊。不以外事爲恤。以至於此耳。兵法云。知彼知己。百戰不殆。嚮者使支那人勤求外事。審知彼之情。則不至激變於廣東。以釀兵禍。使審知彼之俗。則不至僨事於舟山一縣。焦土使審知彼之長短虛實。則不至浙東諸城不守。江南諸戰不競。唯其輕蔑外國之

甚殆寘之於弗問矣。故彼之情狀技倆並有所不悉。臨事蹉跌以取大恥。乃知象寄鞮譯之設不可忽略。而地志圖經之作尤爲切要急務也。津山箕作玉海承父業。執象胥之技。研覈秦西地理之學。嚮者著輿地圖及圖識五卷。上梓公世而猶有所遺。乃拾補之。又成四卷。將復刻之。索序於余。

余以爲方今我邦全盛無事不容有所過慮。然未雨之綢繆爲古之善政。前車之覆後車不可不戒。然則玉海之著亦不可不謂當務之急。而官府累准其請使刊行之。蓋遵古聖王之遺意者歟。是書之出任邊疆之責者資而考之。以審外國形勢情狀。庶幾無臨事蹉跌之患。則吾儕小人

可高枕而寢矣。

弘化三年龍集柔兆敦牂六月念五日

津藩督學 齊藤正謙撰

此書專收本藩所遺國土及各地之沿革形勢風俗等其與本藩所舉大同小異者不復錄若夫概近西人所喜地圖中有邦土之名稱疆界與從前所舉不合而之記載其變革之地誌者譬之猶渡頭失船徒羨望彼

坤輿圖說補未用西書目

- ニウ空ンホイス 子ーデルランヌマガセイ
- ハシデルペール 五ツケース ブロイニシグ
- ルウラニスズラン ノルキワールヂフヘイド
- カムベシ 以上八種

附言

一此書專收本藩所遺國土及各地之沿革形勢風俗等其與本藩所舉大同小異者不復錄若夫概近西人所喜地圖中有邦土之名稱疆界與從前所舉不合而之記載其變革之地誌者譬之猶渡頭失船徒羨望彼

岸光景之一斑而止耳。

一本編中處處舉人物之姓名而不錄其功業履歷故今鈔家最所矚西史外傳中附此書之卷末以補本篇之闕道若欲知其詳宜就外傳覽焉。

一余之繕此書至卷二之半俄然咯血紅雲染稿卷三初則血縷中拈來未暇再校者最覺紕繆蕪陋然余大資十急意在獨成不欲倚人以成事是以每宿病小故輒起脩舊業終至完成部帙余意中之喜可知矣若夫紕繆蕪陋至寒去喧來之交宿病不復發幸得一錢之生添又將加校正改刪焉。

弘化丙午之晚秋念六夜箕作省吾識於夢霞樓南寤病
席上

目錄

卷一

輿地總說 蒸發氣 水原 河川 大海 大山
火脈 地震 山脈 冰山 沙漠 島嶼 港泉
風 熱國 寒國 世界高山表

卷二 亞細亞誌補

漢土 北涼 廣東 香港 前印度 獨立 諸國 英吉利 所領地
獨立 紐紐 加非爾斯當 百爾西亞 亞利比亞

同 米利幹誌補

蘭諸比亞 古名加辣納太

知里 共和政治州 海軍

卷三 歐邏巴誌補

歐邏巴總說 各國人負表 都爾格 海岸諸寨

獨逸連合諸州總說 各國人負口數表 魯西亞 海軍表

佛蘭西 陸軍表 英吉利 海軍表 外蕃旗譜

卷四 本編中所收人物略傳

歷山王 亞理斯得 俄羅斯帝伯德球初世

勃那拔爾的 附歸葬佛國儀式

坤輿圖說補卷一

美作 箕作寬省吾 著

輿地總說

大地ノ物タル其形渾圓ニテ極メテ浩大ニ其周圍何
ノ地ノ間ハズ悉ク人物栖止シ草木繁茂スベシ但其
形圓球ノ如キヲ以テ此地方ヨリ彼ノ地方ノ人ヲ論
スル片ハ或ハ下低ノ所ニアリ之ヲ足版相對スル國
ト云フ即チ北亞墨利加地方ニ下ルベシ然レモ彼
地ヲ上此地ヲ見ル片ハ又同シテ下低ノ所ニアル
高此ノ相彼ヲ見ル方如シ是ヲ以テ相違ニ已レハ栖

止スル所ヲ以テ、高處トナシ、其頭上ニ戴ク所ヲ以テ、
 天トナス、互ニ殊ナルトナシ、又地球ニ引カテリテ、
 百物ヲ地上ニ引ク、是對ノ地方トイヘ、凡我ニ殊ナ
 ルトナシ、是萬物地ニ向テ、落ザルハナキ所以ナリ、中
 ニテ、東西南北ノ間ハ、何レヨリ來ル所、以テ、船大先
 第一ニ、北極ニ其端上ヲ見、新ク近クテ、片舟形、旗
 形、後ハ、船形ヲ見ルニ至ル、是ハ一相
 事ニテ、地球ノ圓形ヲ證スルニ足レリ、
 地球ノ周圍ヲ測量スルニ、其里程、五千四百里、凡、其
 平面ハ、九百萬箇里方積、其重厚ハ、二十六億、五千九百
 萬箇ノ里方積タリ、此處ニテ、海スル里數ハ、
 一里ト定タルモノナリ、其一尺、其中三分ノ一ハ、大地
 六、即チ我ニ尺零三三五ニ下ル

三分、三分ハ、即チ大洋ナリ、其一分、大地土ニ住ム人、
 計算スル所ハ、殆チ下十億ニ及フベシ、
 全地球ヲ分ケ、亞細亞洲ハ、十四分ノ一ニ居リ、歐
 羅巴州ハ、五十四分ノ一ニ居リ、亞弗利加州ハ、十七分
 ノ一、兩亞墨利加、合メ十六分ノ一ニ居ルト云、
 地球ノ原ト暗體ナレ、凡、太陽ニ面スル部ハ、其光線ヲ
 受テ、白晝トナリ、又暖氣ヲ生ズ、然レ、凡、地球自轉ニ勢
 七二テ、太陽ニ反スル所ハ、暗黒トナリ、又冷涼トナレ、
 但此地方ハ、斯ク如ク太陽ニ反テ、暗夜トナル時、其
 是狀相對ニ、北諸州ハ、即チ白晝トナリ、暖氣ヲ受ル、

地球圖說 卷一 第一

尚我初ノ太陽ニ對セシキニ殊ナルトナシ是即チ彼
ノ晝ハ我ノ夜我ノ晝ハ彼ノ夜トナル所以チ新與地
全圖凡例ニ
併ニ考ベクニ

地球太陽ノ周圍ヲ旋繞スルニ常道アリ此ヲ本輪ト
云地球東ニ向テ其本輪ヲ運轉シ止マサルト晝夜舒
速アリトナシ然レモ其本輪ノ形橢圓ナルヲ以テ三
百六十五日五小時即我ニ四十九分ノ時間ヲ經過ス
ル也ハ其原所ニ廻歸ス是即チ我ノ一年ナリ
地球ノ運轉スル本輪橢圓ナルヲ以テ其處ニ依リテ
太陽ト地球ノ距離ニ甚ク遠近ノ差ヲ生ズ然レモ太

陽リリ直線ニ地球上下ニ逆射スルナシ遠近ニ隨テ變
遷アルニハ非ズ其地球太陽トノ距離太ク遠キ片ハ
二億零五百萬里アリ是西洋ノ毎年十二月廿一日ノ
測量ナリ其最ニ近キ片ハ一億九千五百萬里ニ至ル
是彼ノ毎年六月廿一日ノ測量ニ據ト云ス
地球太陽ノ距離ニ遠近ニ依テ四時寒暄ヲ來スニハ非
ズ惟地球太陽ニ面テ欹側スル度ニ從テ其光線ヲ受
ルモ亦多少アリ是ヲ以テ四時寒熱ヲ生ズ
地球ノ運轉スル本輪ノ里程ヲ測量スル也ハ一億二
千一百五十萬零四千二百四十里ナリ地球此遠道ニ

一年ニ運轉ニ盡シ、原路ニ回復ス、是ヲ以テ推測スル
 所ハ、地球ニ秒時間ニ、本輪ヲ東ニ向テ、運轉スルヲ、殆
 ド三里半餘ノ速キニ至ルベシ、其行度ノ神速ナルヲ、
 人智ノ及ブズキニ非ズ、
 地球、毎年太陽ヲ一周廻轉スル外、其體中又更ニ、一箇
 ノ本心アリテ、自ラ旋轉ス、是ヲ自轉ト云フ、其本心ヲ
 地轉ニ盡スニ、二十四小時即チ我
 十二時ヲ以テス、此晝夜ヲ
 生スル所以ナリ、
 地球、其本輪ヲ旋轉シテ、日夜休止スルヲ、無キヲ以テ、
 二十三度半ノ角形ヲ生ズ、是故ニ太陽北極ノ方位ニ

向テ昇騰ヲナスル、彼ノ三月廿一日ヨリ、六月廿一日
 ニ至ルマデハ、赤道晝夜平
 等線ノ直北二十三度半ニ至ル、
 其翌日ヨリハ、彼ノ九月ノ廿一日ニ至テハ、再ビ舊ト
 ノ赤道線ニ復シ、夫ヨリ彼ノ十二月ノ廿一日マデハ、
 南極ノ方ニ向テ、循行スルヲ、二十三度半、其翌日ヨリ
 ハ、彼ノ三月廿一日ニ至リテハ、再ビ舊ノ赤道線ニ廻
 歸ス、斯ノ如ク一上一下、昇降スルヲ以テ、四時ヲ生ズ、
 赤道晝夜平
 等線ニ下ニ、是ヲ以テ、萬國一歲中ニ、春秋二分ノ雨
 日、晝夜平等ナルヲ除ク外ハ、總テ晝夜ノ時刻、長短ノ
 差ヲ生スト云フ、但赤道直下ニ丁ル諸州ハ、此例ニア

ラズ

清潔氣 水原 河川 大海 火山 火脈

清潔氣ノ生ズルヤ其源多端ニテ諸般ノ氣相聚リテ此
一種ノ質ヲ就ス者ナリ世人之ヲ空氣ト名ヅク即チ清潔
氣今是質ヲ大別スル所ハ其中含蓄スル所ノ者四分
ノ一ハ清潔氣ニテ其三分ハ皆窒氣ナリ其他又僅ニ硬
氣アリ云々二氣ノ間ニ交ハリ若シ窒氣ノミニテ清潔氣
ナキ所ハ人畜一刺モ呼吸スルコト能ハズ是故ニ二質
相待テ以テ動植ノ二物繁衍スルナリ
窒氣ノ質タルヤ動物ニ害アルル極テ偉ナリトイヘ

凡植物ノ如キハ恒ニ此氣ヲ吸入人其生ヲ遂グ且ツ
且ニ及ンテ太陽室氣ヲ含ム枝葉ノ表面ヲ照スルハ
其中ニ含蓄スル所ノ清氣ヲ呼出ス此氣動物ノ恒ニ
吸入シ盡ス所ノ清氣缺及ヒ火燈ニ燃盡スル缺損ヲ
補フベシ

清潔氣中ニ一種ノ蒸騰氣アリ此氣ハ水面ヨリ蒸發
タル所ノ若シ人夏月ニ當テハ三冬ヨリモ猶多シ其
氣或ハ雨トナリ百物ヲ滋潤シ或ハ雪トナリテ土地
ノ近寒ヲ防ギ又或ハ其氣太陽ノ照煦ニ遭ヒ後漸ク
冷氣ヲ見ル所ハ即チ低降ス白露トナル

大洋ヨリ蒸騰スル所ノ氣其騰ルニ愈々高ニ至ル所
ハ即チ凝結ノ雲トナル或ハ其雲海風ノ為ニ地方
ニ吹送ラレ高山ノ巔ニ掛ル所ハ即チ變ノ雲トナル
然レモ其掛ル處ノ地甚ク高崇ナラズノ雪際ニ至ラ
ザル所ハ其雲霧山頂ヲ包纏シ遂ニハ地面ニ墜入セ
ラレ川水ヲ造ルノ根源トナル其變ノ雲トナルモノ
モ亦地上ヨリ發スル所ノ温暖氣及ビ太陽ノ光輝ヲ
見テ融解ス其土地甚ク高崇ニシ且ツ峻峭ナル所ハ
其水直チニ飛散噴沫トナリ大氣ノ為ニ放擲セラ
レ復ク變ノ雲霧トナル或ハ地形ニ依テハ激流激射

或ハ一條ノ瀑布トナリ後テ河川ニ合シ遂ニ大洋
ニ歸ス
山嶽高崇トラザレ必ズ大川ヲ生ゼト云フニモ
非ズ帶西並地方諸爾泰山ノ如クハ其山甚ク高ク
スル有名大河四ヲ出ス其曰大乃河三曰亞大河三曰
平ニトナル河四曰高爾加河是ナリ

水ハ必ズ地上ヲ流注スル所ニ非ズ又一種ノ伏
流トシテ彼地相通スル所ハ巖石北高海ノ如キハ
恒ニ諸般ノ大河ヲ納メ其漏洩スル處ヲ知ラズ是必
ズ地底ニ伏流ナリテ黑海ニ通ルナリ其伏流ノ人

畜三極ノヲ緊要ナルヲ第一ニハ山鹽ノ原由ナク
爾加里亞及三獨逸國ノ如キハ人民皆山鹽ヲ食シ瓦
ク其他亞弗利加地方等ノ如キ海濱ニ悠遠ナル地ハ
悉ク陸鹽ヲ取テ生命ヲ保ツ是造物主ノ入畜ヲ憐
スル一斑ヲ見ルニ足ル
大洋ノ漫々タル下實ニ界際ナル下ナク古又ノ諺曰
地球三分ノ二ハ即チ海ナリ是故ニ其海水ノ最モ深
ク所ニ至リテハ一時半行ナリ尚適クニ是ハ無
數海族ノ死體又ハ大河ヨリ流注スル所ノ腐壞物ヲ
皆受納ス厥ハナル所以ナリ然レニ海水恒ニ運動

地學綱目卷之八

海鹽

其無事成ハ其腐敗物ノ惡臭蒸發シ清潔氣中ニ混
和ス其地方ニ一種ノ傳染疫毒ノ氣ヲ生ズヘシ是故
ニ造物主諸種動物ヲ造成シテ此大害ヲ避ケシム
第一ニハ海水中ニ鹽鹼ノ氣ヲ含蓄セシム諸物ノ腐
敗ヲ防ズ第二ニハ火山第三ニハ大風ヲ發ス其蒸氣
ヲ散亂シ或ハ太濤ヲ起ス洋中ヲ擾亂シ第四ニハ潮
汐ヲ來入一日一夜中ニ海水又二度増減シ夫ヲハ暫
時モ靜止セザラシム其他颶風ノ類モ其効用少カラ
ズ
大洋ノ港大ナル下上ニ云々如シト看ヘ尼全地上

地學綱目

卷一

七

海鹽

以幾千萬ノ河川ヲ納シ、其漏洩スル處ナキハ、遂ニ
 八丈ニ漲溢ス、大洪水ヲ發シ、全世界ノ人畜草木ヲ一
 掃スルニ至ルベシ、是以テ造物主、一策ヲ設ク、其水
 而ヨリ絶ヘ、水氣ヲ蒸發セシム、夏月ハ發揚スルハ、
 冬月ハ少シ多ク、是ヲ雨露ト為シ、天炎熱地方モ吹送
 與、清涼ノ氣ヲ生ゼシム、又ハ雪トナシテ、水源ヲ貯ヘ、
 遂ニ河ト為リ、復タ海ニ歸ス、是ヲ以テ、海水數千歲ヲ
 經ルトイヘ、凡、漲溢増減スルノ患ヒナシ
 火山ハ、海中ニアリ、腐敗ノ汚物ヲ掃除スルノ一具ナ
 リ、故ニ先哲、火山ヲ目メ、汚物掃除釜ト云、何トナレバ、

海底ニ含有スル所ノ汚穢百物ヲ、地下ノ伏道ヨリ翕
 土ニ、是火坑ニテ、燒盡スルヲ以テナリ、其海底ニ伏道
 ナリテ、火山ト相互ニ、通交ヲナスト云、一ノ證ハ、火山
 ハ、多ク海水近キ處ニ在ルヲ以テナリ、或ハ又、往古海
 濱近キ處ニ、在ルノ火山、漸ク濱汀變メ、平野トナリ、海
 水ニ遠カタルヲ以テ、火坑ノ炎、漸ク消滅ス、復タ燃ザル所
 ヲ見ル下ナリ、歐羅巴地方ニ、海濱ヲ距ル、五十里ハ
 是故ニ、地中海諸島、印度諸島ニ、火坑多シト云フ
 亞墨利加ノ、暗得大山脈中ニ、處々火坑アリ、夥シク泥
 土ヲ噴出シ、四五里ノ間ニ充壓セシナリ、然レ、凡、其

地、翌年ヨリハ、太夕良沃トナルト云ヘリ、又然時科ノ
 火坑ヨリ、三稜ナル石ヲ射ルト等石ヲ迸射ス、其高ク空
 中ニ迸飛スルヲ、大約百六十丈餘、其一箇石ノ大廿八、
 五男ニメ、僅ニ動搖スベシ、中ニ就テ、奇異火坑ト稱ス
 ル者ハ、「ア」シナチル「ラ」名地部内ニアリ、此坑ヨリハ、常ニ
 魚族ヲ出ス、或年夏月夥シク噴吐ス、其近傍諸地十里
 内外ニ散在ス、「イ」セリ「ト」云フ部落ノ如キハ、其魚ノ
 腐敗シタル臭氣ヨリメ、一種ノ傳染疫毒ノ氣ヲ發シ、
 全部落ノ人種皆斷絶ス、此坑ハ、恐ラクハ伏道アリテ、
 湖水、又ハ川河ト連續メ、此魚族ヲ出セシナルベシ

火山ノ久畜ニ太害ヲナスヲ、又僅カナラズ、常ニ無數
 ノ灰ヲ噴出シ、農田ヲ廢蕪ス、或ハ一種「ラ」ト稱スル
 物ヲ出シ、「ア」アリ、其形狀ハ、石質ノ物ナリ、其未ダ温
 氣ヲ含ム間ハ、赤色ニシテ流動シ、冷氣ヲ見ルハ、即チ
 凝結メ、黑色ノ石ニ變ズ、又時トメハ、火坑ヨリ「ラ」及
 日灰ヲ噴出シ、其臭氣空氣ニ傳染メ、人畜ヲ病シムル
 トアリ、其最モ夥シク噴出スルハ、遠近數里外ニ散
 滿シ、遂ニ人畜壓死セラル、ニ至ル往古羅馬ノ有名ニ
 府此災ニ係リ、皆上中ノ物トナリ、後一千六百五十年
 ヲ經テ、再ビ其府ヲ掘出セシト云フ、然リトイヘ、其

灰及ビ^ラ破砕^ト平地^トナス片ハ、反テ膏沃ノ良
地トナルベシ、意太里亞圖^ニシヘニ^ハト稱スル膏沃
ノ地、即チ是ナリ、是ノ如キノ類、全世界中ニ極メテ多
シ、是皆其地下ニ溫氣鬱伏シ有テ以テ、最モ夥シク良
穀ヲ産スルナリ、

火脈ハ、地下ニアルヲ以テ、其數ヲ詳ニスヘカラズト
イヘ、地震ノ連感、又ハ火坑ノ位置等ヲ以テ推知ス
ヘシ、今全世界中ニ貫通シアル所ノ火脈ヲ分ツテ九
條トス、

第一大火脈、其源ヲ^{ノルカ}臥兒^{ラシ}狼德ヨリ發シ、冰國ニ至リ、歐

邏巴及ビ亞弗利加ニ面シ、^ト州ス^トテ^テボウルボ^ニテ^テ踏
ヘ^テル^ルウ^スチ^ニク^ク島^ニ至^ル

第二小火脈、諾勿慈亞ノ北岸、及ビ蠟皮亞ニ始リ、歐邏

巴及ビ亞細亞ヲ貫通シ、直チニ齊狼島ニ至リテ止ム、

第三六止白里亞、西圖伯特及ビ支那轉輾ヲ經テ、蘇門

太刺ニ至リテ又發セズ、

第四大火脈、其根源ヲ加模沙都加ニ發シ、^トル^ルリ^セ諸

島ヲ經テ、本邦ニ至リ、非利皮那諸島ヲ貫通シ、遂ニ

新加蘭ニ至リテ止ム、

第五小火脈、其源ハ、大日本ノ中州ヨリ發シ、瑪利亞

非諸島ヲ經テ新爲匿亞ノ東岸ニ達シ、遂ニ新則蘭土
ニ向テ走ル、

第六最大火脈、其源ハ米利幹ノ北西部ニ肇リ、其西岸
頭ニ沿テ把納麻地峽ヲ經、遂ニ南亞墨利加ノホルン
岬ニ終ル、

第七大火脈、其源農地ニ發シ、ラシタリ湖及ビアシキ
ルレ凶地名ヲ踰テ、聖テリスタクニ地名アキニ終ル、

第八大火脈、卧兒狼土ヨリ發シ、アソレス諸島及ビ福
島ヲ越シテ、又聖テレスタクニ至ル、

第九小火脈、是ハ亞弗利加ノ西岸ニアリ、

地震 祖山 嗣山 山夷

地震ノ發スルヤ、或ハ山國ニ發スルコトアリトイヘ、
多クハ火山ノ近傍諸州ニアリ、其起原ノ理會ヲ詳ニ
セシト、甚ク難シ、然レモ、窮理家ノ説ニ曰、地震ノ發ス
ルハ、先ニ地下ノ伏道即ニ火脈ニアル水素、鬱伏ノ熱灼ノ
氣ヲ生スルヲ以テ、常ニ大氣ヲ得テ發散セシトス、此
時ニ丁テ、大氣透入スルキハ、直チニ炎騰トナル、然レ
モ、其上ニ大地ヲルヲ以テ、其抵抗力ヲ運スルコト能ハス、
是ヲ以テ、遂ニ其近地ニ地震ヲ發ス、但其火脈ノ大小
ト、大氣ノ多少トニ從テ、震搖ノ輕重アリ、又或ハ、其火

道海底ニ通ズルハ、大ニ海嘯ヲ發スルヲアリ、一説
 三曰、伏道中、天然ニ硝石、硫黃、炭等ノ氣ヲ生シ、鬱伏燄
 灼スル所入、清氣透入スレハ、即チ一種ノ燄ヲ發ス、
 大ニ土地ヲ震搖スト云々、西洋紀元一千七百九十
 年ニ了リテ、或爾地ニ燄ヲ發スル
 事者、二萬人、此地震ハ、卧兒、德、チリ、起リ、此府ヲ震搖
 事、亞弗利加ニ遠ス上云、
 火、歐ノ説ニ參考スマシ、
 祖山古語ニ曰、地球ハ、其往古ハ、海水ノ為メニ埋覆ナ
 ラレタリ、夫ヨリメ久シク年所ヲ經、一在山巔ヲ顯出
 ス、是ク祖山ト名ツク、中ニ就テ二種ニ分ツ、然レ、片雨
 種共ニ其地ニ獸畜ノ遺骨ナシ、

嗣山ハ、祖山ノ後ニ顯出スルモノナリ、其地ニ方今見
 可ル所ノ海獸ノ遺骨ヲ見ル、或ハ諸種ノ殼甲アル獸
 骨ヲ見ル下アリ、其山巔ハ圓形ニメ空陷ノ洞穴アリ、
 其土地ハ皆諸種石質ノ物ニ係ル、今嗣山ヲ八級ニ分
 ツ、

其一、古山ノ巔ハ悉ク沙石ナリ、其二、石灰ヲ含ム所ノ
 土地ナリ、其地ニ於テ條形ノ獸骨ヲ見ル、時トメ、嶺
 場ノ大土、方今ノ鰐魚ニ増ル者アリ、其三、ギク又山ト
 名ツク、其山多ク唐大才ル陷空ノ處アリ、其空處ニ於
 テ、石口ウガ石ノ位置ヨク重疊スルヲ見、又時トメ、

其四壁皆寶石ニノ、其上ヨリ常ニ水液點滴ヲナシ、其
聲四壁ニ響キ、絲竹ノ音ヲナスモノアリ、其景況殆
仙境ニ至ルカト疑フ、其四ツ鹽山ト名ツク、波羅泥池、
翁加里亞國本篇各圖ノ如キハ最モ多シ、其地天然ニ
鹽卓、鹽池、鹽釜、及ビ諸種ノ器什ヲ出ス、恰カニ土中
ニ鹽市アリテ、此異物ヲ造成シ出ス者ノ如ク、其五結
麗土山、佛蘭西及ビ英吉利國ニ多シ、其六、石炭山ニ
其地ニ林木ノ化成シタル者アリ、是品ハ即チ洪水前
世界ノ遺物ナラント云、其七、カラメイニ石山、其八、
サルト山、此山ハ「バ」サルト石重疊積堆メアルヲ以テ

此稱謂アリ、恐クハ火山ノ噴口ヨリ、此石ヲ吐出シ、
積テ一箇ノ山阜トナリタルナラン、其景色意表ニ出
ル、人ノ間界ニ見ルベカラザル者多シ、或ハ其地ニ天
然ノ大都會、又ハ政廳等ノ形ヲ顯出スルヲアリ、思
齊亞、近傍「ス」多「ン」ヒンガル洞、及ビ意而蘭土ノ「五」セ
ニ名ツ洞ノ如キ是ニ同ジ、
李山、是ハ大洪水後ノ物ニメ、即チ高山ヨリ大洋ニ河
水ヲ流出スル所、其水ニ沙土ヲ交ヘテ、此ヲ海濱ニ輸
リ、後千年所ヲ經、漸ク增長メ、一阜洲ヲ爲ス、亞弗利加
大沙海ノ如キ是ナリ、其地ニ偉獸骨、又ハ「ム」モウ

獸甲獸骸ヲ出シ、或ハ草木五穀ヲ養フベキ一種ノ土
ヲ産ス、實按、毛根川、洪水アルキハ、五穀實ルヲ、半并ニ
倍スト云フ者ハ、即チ是等ノ土ヲ云ニ似タリ
其他土中ニ、諸種ヲ含蓄シタル鑛金ヲ生ズ、則チ黃金
白銀、水銀、銅、鐵、錫、鉛、又ハ半金半石ノ物ヲ出ス、此等ヲ
出ス處ノ地ニテラズ、或ハ地ヲ掘ルト僅ニメ、鑛金ヲ
見ルモアリ、又至深ニ至ラザレバ得ザルモアリ、或ハ
山阜ニテ見ルトアリ、或ハ金銀及ビ鐵等ノ凝塊ヲ得
ルトアリ、又ハ鑛金ヲ得、是ヲ醇正トナサンガ為メニ、
莫大ノ金錢ヲ費メ、反テ損亡ヲ為ストモアリ、
凡ソ山ノ種類ハ、祖山、嗣山、拳山ノ三種ニ過ギズトイ

ヘ、凡、其山ノ形狀ヲ以テ云フキハ三種ヲ又三等ニ分
ツベシ、一ハ山脈、一名山脊ナリ、二ハ山峯、是山脚ニ在
ル諸州ニメ、半ハ山脈ニ連リ、半ハ平地ナルヲ云フ、是
班乎、西藏、黔、時、等ノ如キ即チ是ナリ、其各州皆海面
ヨリ高キト六七千尺、南亞里到加洲、白、部
ニ參考ノ如キハ其平地ト稱スル地モ、尚九千尺ニ下
ラス、三ハ高山ナリ、意貌、暗得、牙爾、白ノ如ク即チ是ナ
リ、其他海ト陸トノ間ニ位スル處ヲ岬濱ト云フ、然レ
モ其地形ニ從テ高低一ナラス、大英國ノ海岸ハ、皆結
麗土ニメ、其高キト仰キ見ルヘシ、是レ海舶ヲ寄スベ

カラザル所以トス、

土地ノ寒暄ハ、天度ニ依テ然リトイヘモ、其地形ニ依
テ異同ナキニ非ズ、大約北亞墨利加ノ地ハ、歐通巴洲
ト同帯ニシテ、寒氣ノ酷烈ナルト恰モ十度ノ差アリ、又
赫爾勿婁亞國ノ如キ、土地高崇ナル所ハ、氣候酷寒、殆
ト卧兒狼德ノ如シ、然レモ其平夷ナル地ハ、氣候溫和
ナルト、意太里亞ニ殊ナルトナシ、

雪山 大沙海 風 島

雪山ノ要用タルト極テ大ナリ、先ヅ早熟ノ歳ニ至レ
ハ、山トハ湖水枯死シ、又雨露ノ滋潤ニ乏シク、遂ニ其

地方ハ、積氣ノ患ノ是ヲ以テ、造物主別ニ冰山雪山ヲ
貯ヘ置テ、其害ヲ防ク、其冰野ト稱スル者ハ、宿雪ノ凝
結シタル物ニシテ、其地、雪際以上ニ届ク所ハ、宿氷終夏
消セズ、故ニ萬古ニ亘リテ消化スルトナシ、但其雪際
ト稱スル所、天度ニ依リテ一ナラズ、大約兩寒帯下ノ
間ハ、平地トイヘ、在四時雪アリ、兩中帯下四十五度
ノ地、即チ牙爾白山ノ如キハ、九千尺ニシテ、雪際アリ、兩
寒帯下ハ、一萬四千六百四十尺ニシテ、僅ニ雪際ニ至ル
大沙海ノ源ハ、亞弗利加洲ヨリ發シ、東ニ走り、殆ト支
那ノ境界ニ至ル中ニ就テ最大ナル者ハ、沙拉ノ沙海

ナリ、其廣袤北緯十五度ヨリ三十度ニ亘リ、其平面殆
ト歐邏巴半洲ニ比スベシ、是ノ如ク廣漠ナルヲ以テ、
東風ノ吹ク毎ニ、過多ノ砂石ヲ其近海ニ吹送り、海底
漸ク淺水トナリ、其岸頭ノ如キハ、遂ニ變ノ大沙地ト
ナル、其白砂上ニ、太陽ノ光線反射ヲ、熱灼手足ヲ焦熾
スルニ至ル、是其地ニ絶テ物類ヲ生植セズ、又流水皆
伏スル所以ナリ、
亞弗利加洲ノ大沙海中處々ニ良地呈散シ有ルヲ、尚
大洋中ニ島嶼アルカ如シ、土人之ヲ「アセ」ト云、隊
伍商ノ如キモ、大沙漠ヲ通行スルノ間、恒ニ其地ニ至

リテ休息シ、又旅裝ヲ繕フ、若シ沙海中ニ斯ノ如キ所
ナキハ、人跡殆ト稀ナルベシ、然レモ斯ノ如キノ地
ハ、西部ニハ有ラス、惟東部ノミニアリ、其數大小三
十二所、中ニ就テ二十八人住人アリ、弗沙ノ如キ、即チ
其一ナリ、但沙漠ハ、新々ニ増衍スル者ノ如シ、
泥濘川泥川ノ西部ニ小沙阜アリ、風ニ從テ流動スベ
シ、之ヲ遠望スル所ハ、其景況畫圖ニ殊ナルヲナシ、又
沙漠中ニ一種紫色ノ重霧アリ、其中ニ毒氣ヲ含ム、之
ヲ「アセ」ト云、防寇隊商其氣ヲ見ルハ、大聲呼テ曰
空風來ル、其聲ト共ニ、衆人皆地ニ伏ス、其擣フ所ノ

西域圖志卷之九

駱駝モ亦此事ヲ知テ、皆頭ヲ沙中ニ埋ム、其氣ノ流通
シ過ルマテハ、人畜共ニ呼吸ヲナストナシ、然レモ其
空氣太ク敏捷ニメ、避クヘカラサルハ、一瞬間ニ
即死シ、空シク白骨ヲ止ムルヲアリ、或ハ又沙海中ニ
於テ、遠ニ湖水草木村落等ヲ遠望スルヲアリ、行旅輩
急ニ其地ニ就テ、飲食ヲ得ント欲シ、其近ニ至ルハ、
俄然トメ其影又他所ニ移ル、土人芝ヲ逃市ト云、即チ
野市ノ此等ハ皆太陽ノ光線、沙上ニ反射ノ斯ノ如キ
物影ヲ顯出スルナリ、

亞利比亞ノ沙漠モ亦沙拉ノ砂脈ニ係ルト云フ、此地

ハ砂中ニモ、處々鹽井又綠野アリテ、草木茂生スルヲ
見ル、惟百爾西亞灣ニ近ツクハ、暑氣酷烈、百物皆有
セズ、古昔歷山王ノ軍卒、克チニ乘シ、長驅メ此ニ至リ、
シカモ邊ニ進ムヘカラズメ、歸陣セシヲ以テ、其惡地
ヲ推知スベシ、此砂脈安日河ニ至テ斷絶シ、其北部ニ
至リテ復タ發ス、之ヲ「ゴビ」一名翰海ト云、

沙海ニ依テ良土ヲ廢蕪シ、邊ニ無人ノ境トナル地、處
々ニアリ、然レモ沙海ノ人畜草木ノ爲メニ要用タル
モ亦少ナカラズ、第一砂海ヲ超テ來ル所ノ風ハ、酷烈
ナルヲ以テ雪山ノ宿雪ヲ融解シ、水源ヲ為シ、邊ニ土

地ヲ滋潤ナラシム、其證ハ沙海ノ形勢ト、雪山ノ位置
 相對峙スルヲ以テ推知スベシ、第一北極嶺、何山、及ヒ
 牙爾白山ニ對シ、沙拉アリ、クワヒス山ニ對シ、ユビト
 砂アリ、加烏葛須山ニ對シ、百爾西亞ノ沙アリ、意觀山
 ニ對シ、印度沙アリ、滿州蒙古ノ雪山ニ對シ、翰海アリ、
 故ニ雪山ト沙海ノ地形ハ、總テ相對峙スル者ナリ、未
 利幹地方大山脈ノ連續ハ、古半球亞細亞歐亞巴ノ地
 ト同シカラズ、故ニ東西ニ走ラズ、南北ニ走り、圖ノ
 東部ニ在ズ、西部ニ在リ、其理徒為ニ非ズ、大約熱帶
 地方ニテハ、方位一定ノ風アリ、東ヨリ西ニ吹ク、是ヲ

以テ、亞弗利加ノ沙海ヨリ、熱灼ノ氣ヲ受ケタル烈風
 直チニ西ニ向テ、隼飛シ、時得大山脈ニ至リテ、宿雪ヲ
 融解シ、世界第一第二ノ洪河ヲ造成シ、大ニ其地ヲ滋
 潤豐沃ナラシム、亞瑪鑽銀河即チ是ナリ、本篇未上條
 其山脈西部ニ在ル所以ハ、若シ東部ニアル所ハ、此
 一大州皆山陰トナリ、且ツ宿雪ヲ融解シ、大河ヲ造ル
 所、此州ノ補益トナルナシ、其地形ヲ知ラシム欲セ
 ハ、輿地圖ニ參考スベシ、此處ニ詳シク説ク
 風トハ、空氣ノ流動スルヲ云フナリ、其効用亦少ナカ
 ラズ、或ハ寒熱ヲ混和シ、又ハ火山及ヒ汚水ヨリ出ス

所ノ惡臭ヲ新鮮ニス、今風ヲ大別ノ二トス、一ヲ變化
風ト云ヒ、一ヲ定向風ト云フ、其定向風ニ屬シタルハ
スサトト風ハ、回歸線ノ中間ニ在ル邦土ニテハ、絶ハ
ズ東、又ハ北東、南東ノ方位ヨリ吹ナリ、其變化風ハ、夏
月ハ海上ヨリ陸地ニ吹キ來シテ、熱地方ヲ冷涼ニス、
三冬ノ節ニ至テハ、地方太ダ寒烈ナルヲ以テ、卻テ陸
地ヨリ海上ノ空氣ニ交替スト云、
廻歸線間ノ邦土、就中印度海ニ於テハ、其種定向ノ風
アリ、之ヲ「EUSO」ト名ヅク、此風彼ノ四月ヨリ九月
ニ至ルマデハ、西及ビ南西ヨリ東、及ビ東北ノ方ニ吹

キ、十月ヨリ三月マデハ、是ニ反シタル方向ニ吹キ來
ル、此風順ハ、航海客一日モ知サルベカラサルノ第一
タリ、是理ヲ以テ往古鐵盤、及ビ航海術ノ測器、未タ世
ニ知レタルニ先ツテ、羅馬人南西ノ風順ヲ待テ、印度
地方ニ通商シ、北東ノ風順ヲ待テ歸帆スト云、
島嶼ノ要用タルト、亦太夕偉ナリトス、若シ大洋中ニ、
島嶼ナト片ハ、波濤ノ猛威増長シ、加之、舟楫者地方ニ
依テ此難ヲ避ケントスルモ、空落無際ニテ、遂ニハ魚
腹ニ葬レンノミ、是ヲ以テ、印度海ニアル馬爾地歌私
諸島近傍ニ至テハ、舟楫者安穩高枕ヲ通過スト云、何

トナレバ、此海ハ一萬二千餘ノ島嶼散落シアルヲ以テ、其颯風大浪ニ隨テ、彼此ニ危難ヲ避クヘシ。島嶼港外ニ在ルハ、島内總テ平穩ナリ。是故ニ世ニ好譽ヲ稱セラル。港外ニハ大約二三ノ島嶼アリ、若シ港外ニ島嶼ナキハ、水流激射シ、直ニ大洋ニ注入スベシ。斯ノ如キ地ハ、大風海嘯等ノ災ニ丁リテハ、風浪逆上シ來テ、港内ノ鵠犬ヲ一掃スルコトアリ、舟楫者宜シク注意スベシ。其他港外ニ數島嶼アルハ、何ノ方向ノ風ヲ問ハス、皆揚帆シ去ルベシ。島嶼ハ海舶ノ爲メニ、必用缺クベカラサルノ一タリ。

若大洋中ニ地方ナキハ、薪水蔬菜ヲ求ムヘカラス。又島嶼ナキハ世界中ニ於テ產物ヲ減少スルコト少トセズ。何トナレバ、島嶼ハ至小トイヘテ、物産ノ多キ大陸ノ比倫ニ非ズ。又寒暄氣候ノ差、大陸ノ如ク甚ダシカラズ。是ヲ以テ、人烟稠密シ、百菓皆生セザル者ナシ。其證ハ、印度諸島ヲ以テ推知スヘシ。

高山

世界第一ノ最高峰ト稱スルハ、即チ圖伯特國ノ「ヒンマライ山」古名ヒマラヤ也。一名雪庫山ニ如クハナシ。其山ノ形狀ハ、直立峻峭、空中ニ聳ヘ、其巔ニハ、天地間

開以來ノ宿雪アリ、西洋人此山ヲ測量セサル前ハ、皆
 暗得ヲ以テ、天下ノ最高處トセシト云、測量家ノ記載
 ニ曰、凡ソ山ヲ測ルニ、其地海上ヨリ高キ一萬六千
 尺ニ至ルカハ鼻孔及ヒ唇皮ヨリ、鮮血迸出ス、愈
 ヲ躋リテ、二萬二千尺ニ至ルカハ、呼吸窒塞メ、歩ヲ進
 ムヘカラス、又測器ノ水銀凝固メ、昇降セサルニ至ル
 是レ皆空氣輕粗ナルヲ以テ然リト云、意貌山ノ如
 キハ、雪際以下ハ、大松樹ヲ繁茂ス、其幹高サ百八十尺
 其樹ノ幅二十四尺、櫟木ノ如キモ、高サ六十尺、幅七尺
 アリト云、其以下ハ、雜樹ヲ生ズトイヘ、皆短少ニメ

歐邏巴產ニ殊セラルナク、今尚餘リ、測り、其高
 世界高山比表

亞細亞洲

- トハラギトヒ峰 意貌山脈 二萬六千四百六十二尺
- 井ハヘル峰 意貌山脈 二萬五千七百四十九尺
- ベトカ峰一名ハマル山 支那 二萬一千尺

亞墨利加洲

- シシボ石ソ峰 暗得山脈 二萬一千四百六十四尺
- アシチヤ山脈 同火山 一萬九千一百三十四尺
- コトハシト峰 同火山 一萬八千八百零七十八尺

亞弗利加洲

亞比西域一名月山 一萬五千零五十尺

ヒルヤ山 福島子リリ山 一萬二千三百五十八尺

亞太臘山 一萬二千尺

歐邏巴洲

モンテブランコ山 牙編白 一萬五千七百三十五尺

セントロサ山 同 一萬五千六百尺

タルトレス山 一萬五千三百六十四尺

紐宛領府東印度ノ條ニ意貌山ノ記載アリトニ舉ル所ノ比例ニ同シカラズ故ニ今附録ノ後ノ考證ニ備

又其記云曰意貌山ノ支流ニ「エスタラス山」ト名ツクル峰アリ英吉利如比册「空ツ」ノ説ニ曰其巔ハ海面ヨリ高キト二萬八千尺暗得山人「シ」ボ多ツ峰ヨリ高ト下殆下八千尺然レモ此山ヲ以テ意貌山ノ最高處ト云フ所非ズ其「ハ」ラギール山ト稱スル峰ハ此頂ヨリ遠望スルニ尚高ク雲間ニ聳クト云

寒國

卧兒狼德ノ内地ハ氣候酷寒冬月ノ如キハ火酒氷銀共ニ凍結ス流動セラルニ至ル是ヲ以テ土人「ゴ」スル本島ニ「考」恒ニ穴居ス其上ニ玻璃板ヲ帖メ太陽ノ光

輝ヲ取ル然レ厓隆寒ノ時ニ至リテハ寒氣膚ヲ裂キ
血液ノ運廻歇息セントテ恐レ其穴口ヲ閉テ内ニ
木片及ビ魚骨ヲ燒キテ暖烟ヲ室内ニ滿タシ又凍
ヲ防グト云西洋人此地ノ寒氣ヲ測驗セシニ驗温氣
管東點下四十八度若シクハ五十度ニ至ル又此地ノ
西方冰海中ニ尖山ト云地アリ其地ノ氣候亦此地ニ
譬據タリ但冬月太陽ノ光線ヲ受クルトハ較此地
勝ルト云然レ此氣候酷寒ナルトハ彼地甲乙ヲ詳ニ
易カラズ其證ハ尖山ニ住ム白熊狐狸ノ如キモ隆寒
ノ時ハ五死セントテ恐レ此州ノ南部亞ドクニス港

地球圖説補遺 卷一

ニ礙ケ來ルヲ以テナリ

熱國

全世界中ニ於テ極ノテ酷熱ノ地ト稱スル地ハ亞弗
利加ノ大沙海ニ如クハナシ然レ厓其地方ハ水草無
キヲ以テ人畜栖止スベカラズ又熱度ヲ驗測スルト
能ハズ其海濱ノ地トイヘ厓夏月ニ至レバ太陽白砂
ニ透射スル熱近クベカラズ西人試ミニ鷄卵ヲ取テ
熱砂中ニ投ズルキハ皆其液凝固ノ熱湯中ニテ煎煮
センモノニ殊ナルト云今人畜栖止シ草木茂生ス
ル所ハ熱地ヲ云フキハ東印度地方ニ如クハナシ中

地球圖説補遺 卷一

ニ就テ前印度ノ内部ニ止里ト稱スル地アリ其熱約
ノ甚シキヤ驗温器ニテ測ルニ一百十三度ニ騰ルト
云寛按本邦ノ如キハ三伏ノ暑トイテ主人其熱ニ苦
ヘ凡太約九十三四度ヲ以テ極トス土人其熱ニ苦
ミ相為ノニ語ノ曰此地ノ外世ニ炎熱地獄ナルベ
シ然レモ此地ノ晝夜ハ太約平等ナルヲ以テ日中ノ
熱氣夜間ニ至レバ消盡ノ翌日ニ殘ルヲナク又河湖
ヨリ騰氣ヲ發スルヲ多キヲ以テ天氣常ニ濛々能ク
大雨ヲ來スト云

坤輿圖識補卷一終

長門 田原綱高柳校本

